

【技術の名称】 PCaパラレル基礎梁工法 ープレキャスト複合コンクリート基礎梁ー	性能証明番号：GBRC 性能証明 第23-21号 性能証明発効日：2023年10月24日 【取得者】 株式会社安藤・間
---	---

【技術の概要】

本技術は、プレキャスト（以下、“PCa”と称す）部材の軽量化を図るために PCa 鉄筋コンクリート半部材を用い、これと施工現場で後から打ち込んだコンクリートを一体化することで、構造体または部材として機能する PCa 複合コンクリート基礎梁を構築する技術である。部材の軽量化のために基礎梁を幅方向に3分割し、2つのハーフPCa部材（梁長さが大きくなる場合はさらに材軸方向でのPCa部材の分割も可）と中央部の後打ちコンクリート部分により構成する。分割することによりPCa部材の軽量化が図れ、上部構造のPCa柱部材と同等の重量まで低減できる。なお、材端部の鉄筋継手位置では一体打ち部材と同様な構造となる。

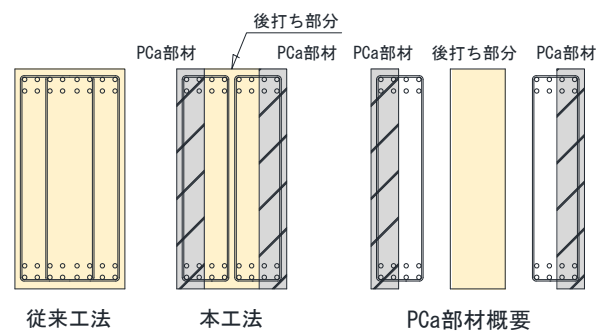


図-1 工法概要（断面）

【技術開発の趣旨】

PCa工法は、施工が容易であるだけでなく、部材精度の向上、全体工期の短縮等の利点がある。上部構造の柱、梁についてはPCa工法の採用が進んでいるが、基礎構造については上部構造にPCa工法が採用されている建物でも現場打ち工法が採用されている。基礎梁のPCa化が進まない主要因の1つに、部材重量の課題があげられる。基礎梁は上部構造の梁に比べて断面が約3倍大きく、PCa部材は25トンを超える重量となり、製造、運搬、揚重が困難になる。この課題を解決するために部材の軽量化を図ったPCa部材を用いた基礎梁構造を開発した。

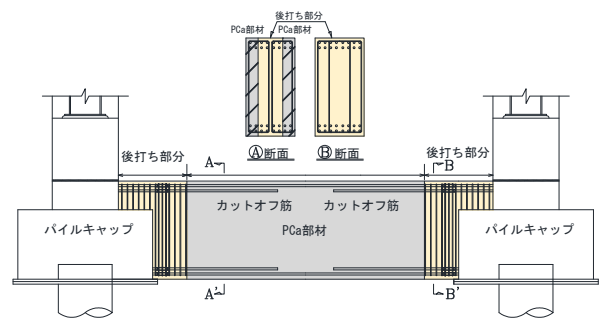


図-2 工法概要（立面）

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「PCa パラレル基礎梁工法設計施工指針」に従って設計・施工されたPCa複合コンクリート基礎梁は、長期荷重時に使用上支障となるひび割れ等の損傷を起こさず、短期荷重時に修復性を損なうひび割れ等の損傷を起こさない。また同指針で定める終局耐力を有する。

【本技術の問合せ先】

株式会社安藤・間 技術研究所 担当者：松浦 恒久
〒305-0822 茨城県つくば市荻間 515-1

E-mail：matsuura.tsunchisa@ad-hzm.co.jp
TEL：029-858-8812 FAX：029-858-8819